

第1学年2組 生活科学学習指導案

授業日 平成29年7月11日(火) 昼休み～5校時
授業者 附属新潟小学校 教諭 三星 雄大
会場 家庭科室, 1年2組教室

1 単元名

「がっこうたんけんたい -すてきな〇〇さん-」 - 内容(1)と(9)の関連 -

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領第5節生活第1学年及び第2学年の内容(1)と(9)に準拠して設定したものである。

- (1) 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。
- (9) 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

本単元の学習対象は次の通りである。

調理員：子どもの健やかな成長のために、栄養や衛生のことを考えながら、学校で生活する大勢の人の給食を時間に合わせて作ったり次の日の給食に向けて一つ一つの食器を効率よく綺麗に片付けたりすることができるように、仕事を計画・分担している。

本単元では、調理員の思いを追究することを通して、調理員に対する気付きの質を高める子どもを目指す。「調理員の思いを追究することを通して」とは、調理員の仕事に着目し、立場を変えて考えるという「見方・考え方」を働かせて、自分と調理員の相違点を考えたり調理員の思いを予想したりすることである。「調理員に対する気付きの質を高める」とは、自分は調理員に支えられて生活できていることに気付くことである(調理員に関する関係的な気付き)。

本単元は、調理員の仕事に焦点付けて学習を行う。給食は子どもにとって、既知の内容(できあがった給食)と未知の内容(給食室にある道具や機械、調理員の仕事と思い)が含まれている。子どもは、日常生活の中で調理員の仕事を見ることはできない。できあがった給食が毎日運ばれてくるのが当たり前前の状況になっており、調理員の仕事と思いに支えられて生活できていることには気付いていない。本単元を通して、「自分は調理員に支えられて生活できている」等と気付くことが、内容(1)学校と生活における関係的な気付きである。

従来の実践では、子どもは、「調理員さんは、～をしていた」等と、調理員の仕事に対する気付き(個別的な気付き)に留まっていた。調理員の仕事を動画等で見せたり知りたいことをインタビューさせても気付きの質が高まらなかったのである。

気付きの質を高めるために、まず「追究の視点を明確にさせる場面」を設定する。活動前に、追究の視点をもたせるのである。具体的には、調理員の仕事(速さ、時間等)に着目させる。次に、「仕事の大変さ、難しさを実感させる場面」を設定する。これが、「まねっこ活動」である。この活動により、子どもは、調理員の仕事(速さ、時間等)に着目し、立場を変えて考えるという「見方・考え方」を働かせ、自分と調理員の相違点を考えたり調理員の思いを予想したりする。このような一連の学習過程を経て、調理員に対する気付きの質を高める。調理員に対する気付きの質を高めた子どもは、「これからは、苦手なものでも食べられるようにしたい」等と、学校生活を送る一員として適切に行動しようとする態度も発揮する。

また、生活科では、学習対象とかかわることにより形成される自分自身への気付きへと気付きの質を高めることが求められている。しかし、子どもは一連の学習過程において前述の気付きには無自覚であることが多い。そこで、年間を通して、自分の成長絵本をつくらせる手立てを講じる。

本単元において子どもは、タブレット端末を活用し単元初期と単元終末の調理員の仕事に対する自分のとらえに着目し、比較して考えるという「見方・考え方」を働かせて、調理員とかかわることにより形成される自分自身への気付きを自覚する。

このように、生活科の様々な資質・能力が発揮させることができることに本単元の価値がある。

3 本単元で目指す姿

調理員の思いを追究することを通して、調理員に対する気付きの質を高める子ども

具体的には、「いつもおいしい給食を作ってくれてありがとうございます。僕は、調理員さんが毎日大変な準備をして給食を作ったり片付けてくれたりしているから元気に過ごせるのだということが分かりました。食器の後片付けを試みたら思っていたよりも大変でした。調理員さんはすごいです。今までは、苦手なものを残すこともあったけど、これからは給食を残さず食べられるように頑張ります」等と、調理員へ手紙を書く姿。

4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全7時間 (210)

単元カード参照

6 指導の構想

子どもは、これまでの学校生活において五十嵐栄養教諭に旬の食材を使った給食の紹介をしてもらったり配膳の仕方や片付けの仕方などを学んだりしてきた。しかし、調理員の仕事や思いについては知らない。そこで、まず、調理員の仕事について知っていることを問う。子どもは、調理員が日常的に行っている仕事について発表する。しかし、この時点で子どもは調理員の仕事のすべてを知っているわけではない。そこで、調理員の仕事を調査する活動を設定する。給食室は、衛生上子どもが入ることはできない。そこで、6月7日の献立を作る過程をまとめた動画を基に調理員の仕事を視聴させる(本単元における調査活動)。この場面では、五十嵐栄養教諭と調理員の仕事の違いや一日のタイムスケジュールも確認する。このような学習を通して子どもは、調理員に関する事実に気付く(C0=調理員に関する個別的な気付き)。

働き掛け1

調理員の仕事について子どもが知らない情報を提示し、驚いたこと、これから考えたいことを問う。

調理員の思いに向かう問いを設定させるための働き掛けである。

まず、調理員の仕事について子どもが知らない情報を提示し、驚いたことを問う。この場面で提示する情報は、手洗いで洗っている900個の食器と20分で手洗いしているという事実である。

※ 食器の片付け参考情報

- ・毎日、900個ある食器と900個のお盆を手で洗っている。かかる時間は、20分。
- ・洗う食器は、その日の汚れ具合により変わる。手洗いでできない食器については、つけ置き(15分以上)をしてから食器洗浄機に入れて洗浄する。
- ・作業は二人か三人で行う。合成洗剤を使い、洗浄用のスポンジとゴム手袋を使用している。
- ・食器洗浄機ではすべての汚れをきれいに落とすことができない。そのため、手洗いは欠かせない作業である。
- ・給食室は窓を開けることができない。そのため、高温の状況で作業をすることになる(6月:平均気温30℃, 平均湿度50%)。

子どもは、提示された情報に含まれている具体的な数値や時間に驚きを感じる。そして、どのようなのか知りたくなる。このような子どもに調理員が食器を洗浄している様子を撮影した動画を視聴させ、これから考えたいことを問う。子どもは、**調理員の仕事に着目して、立場を変えて考える**という「見方・考え方」を働かせて、調理員の思いを予想する(生活科②)。この段階では予想であるため、調理員の思いを活動を通して確かめたい。そして、「毎日食器を洗うのは本当に大変なのか食器洗いの仕事をして確かめよう」という学習課題を設定する。

働き掛け2

「まねっこ活動」を設定し、思ったこと、どのような「めがね」を使えば課題が解決できそうかを問う。

見通しをもたせるための働き掛けである。

まず、「まねっこ活動」の場を設定する。この活動は、調理員が日常的に行っている食器洗いを実際に行わせるものである。食器洗いには、衛生面に配慮し、次の日に綺麗な食器で給食を食べてほしいという調理員の願いが込められている。さらに、この仕事は、子どもが調理員と同じ条件で行うことができる(場所と服装以外は同じにできる)。そのため、「まねっこ活動」に適すと考えた。皿洗いが終わった後は、きれいになっているかを調べるための試薬(ヨウ素溶液)を用いる。さらに、調理員が洗ったお茶碗に試薬を垂らした後の写真(青紫色になっていない)を提示する。自分ではきれいにしたつもりでもデンプンが残っていると反応してしまう(青紫色になる)。調理員は、洗うのが速く、汚れもきちんと落としている。試薬を用いることで、仕事の難しさ、大変さの実感につながる。

活動後は、思ったことを問う。子どもは、**調理員の仕事(速さ、時間等)に着目して、立場を変えて考える**という「見方・考え方」を働かせて自分と調理員の相違点を考える(生活科②)。また、1回では確かめられないこともあると感じ、再度「まねっこ活動」をしたいという気持ちをもつ。このような子どもに、どのような「めがね」を使えば課題が解決できそうかを問う。子どもは、課題解決につながる追究の視点を明確にする。

働き掛け3

「まねっこ活動」を設定し、どうして同じ仕事を続けていられるのかを問う。

思考・判断・表現を促し、思いを確かめたくなるようにさせるための働き掛けである。

まず、再度「まねっこ活動」の場を設定する。子どもは、**調理員の仕事（速さ、時間等）に着目して、立場を変えて考える**という「見方・考え方」を働かせて自分と調理員の相違点を考える（生活科②）。このとき、タブレット端末を活用させて食器洗いの様子を撮影させておく（ツール活用能力）。

活動後、調理員と自分の食器洗いの様子から言えることを問う。子どもは、**調理員の仕事（速さ、時間等）に着目して、比較して考える**という「見方・考え方」を働かせ、相違点に気付く（生活科②）。大変さに気付く発言が見られたときに、大変だと思ったことがあるかを問う。子どもは、**調理員の仕事（速さ、時間等）に着目して、比較して考える**という「見方・考え方」を働かせ、相違点に気付く（生活科②）。

「まねっこ活動」を通して、調理員が日常的に行っている食器洗いの大変さを実感した子どもに、どうして同じ仕事を続けていられるのかを問う。子どもは、**自分と調理員の相互関係に着目して、関係付けて考える**という「見方・考え方」を働かせて調理員の思いを予想する（生活科②）。このとき子どもは、「まねっこ活動」を基に考えたり友達の考えを分かろうとして聞いたりしながら、自分の考えとつないで調理員の思いを考える（協働性）。この段階では予想であるため、調理員の思いを聞いて確かめたくなる。

働き掛け4

調理員との交流の場を設定し、調理員に向けた手紙を書かせる。

調理員に対する気付きの質を高めさせるための働き掛けである。

子どもが予想した調理員の思いを確かめさせるために、調理員の話をお聞かせする。話してもらう内容は次の通りである。

給食を作る仕事は簡単ではありません。大変なこともたくさんあります。でも、頑張って続けられるのは、皆さんに元気で大きくなってほしいからです。美味しく給食を食べてほしいからです。給食の片付けも一生懸命にします。次の日にびかびかの食器で食べてもらいたいからです。私たちが嬉しいのは、作った給食を全部残さず食べてくれることです。食器がきれいになって返ってくることです。これからも美味しい給食を毎日届けます。

このとき、調理員に支えられて生活できていることに気付かせるために調理員の仕事と自分の関係が可視化されるように黒板に示す。また、子どもに質問させ、これまで気付いてきたことと聞いて分かったことをつないで考えられるようにする。

最後に、調理員に向けて手紙を書かせる。このようにすることで**調理員の思いを追究することを通して、調理員に対する気付きの質を高める子ども（Cn）**となる。

働き掛け4の後に、自分の成長絵本をつくらせる手立てを講じ、自分自身への気付きを自覚させる。

7 本時の構想（本時 3 / 7 時間）

(1) ねらい

使用した食器を洗う活動を通して、自分と調理員の相違点に気付き、課題解決に必要な追究の視点を明確にすることができる

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 調理員に関する事実気付いている（調理の仕事があること。調理員の人数や名前等）。
- 給食後の仕事については何をどのようにしているのか知らない。

このように働き掛けると【働き掛け1-①】

- 食器の片付けについて、子どもが知らない情報を提示し、分かったこと、疑問に思うことを問う。
 - ・説明「この前は、給食ができるまでの学習を行いました。でも、給食室にはまだいろいろな仕事があるのですよ」
 - ・説明「給食室では毎日これくらいのお皿を洗っています（900枚提示）」
 - ・発問「食器を手洗いしていると聞いて驚いたことはありますか。ワークシートに書きましょう」
 - ・指示「発表してください」

このようになり（C1-①）

- 食器の片付け方について考える。
 - ・900枚を手で洗っているのは初めて知ったから驚いた。どういう風に洗っているのかな。
 - ・食器を洗っているところを見たい。

このように働き掛けると【働き掛け1-②】

- 食器の片付けの様子を動画で提示し、疑問に思うことを問う。
 - ・説明「片付けについてまとめた紙だけでは分からないことがあるようですね。残念ですが、

給食室には五十嵐先生と調理員さんしか入れません。ですから、いつものように見に行き調べてあげることができません。そこで、これから食器を洗っている様子を映した映像を見てもらいます」

- ・発問「食器を洗っている様子を見て、これから考えたいことはありますか」
- ・学習課題「毎日食器を洗うのは本当に大変なのか食器洗いの仕事をして確かめよう」
- ・発問「これから考えたいことをワークシートに書きましょう」

このようになり (C1-②)

- 調理員の思いに向かう学習課題を設定する。
 - ・家と同じようにスポンジを使っていることが分かった。
 - ・大きな流しに水をいっぱいためて洗っていることが分かった。
 - ・たくさんの食器を毎日洗うのは大変だと思う。
 - ・今のままだと大変かどうか分からないから調理員さんと同じことをして皿洗いが本当に大変かどうか確かめたい。
- ※ のような発言に対し、同じように考えているかどうかを問い、挙手が見られたら問いをもつた判断する。
 - ・大野さんのときのように「まねっこ活動」をすれば分かります。

☆生活科②

見方・考え方

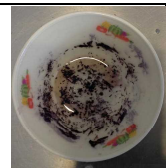
このように働きかけると【働き掛け2-①】

- 「まねっこ活動」を設定する。
 - ・説明「今日は、調理員さんの「まねっこ活動」をします。食器洗いの「まねっこ活動」です。使う道具と部屋の暖かさを同じにしています。今日の「まねっこ活動」を説明しますよ（次の内容を拡大した紙を基に説明する）」
- ・洗う食器は、今日の給食で1年生が使ったご飯茶碗。
 - ・二人一組で行う。一人が最低でも1つ洗う。
 - ・お茶碗を洗う時間は10秒とする（調理員と同じ3秒に挑戦したい子どもは認める）。
 - ・洗い終わった食器は、水を拭き取って、汚れが落ちているかを薬（ヨウ素液）で確認する。

※教室をパテーションで区切り、暖めておく。説明や「まねっこ活動」の振り返りは、オープンスペースで行う。
- ・指示「それでは、「まねっこ活動」を始めます」
 - ・指示「ペアで洗い終わりましたね。汚れがきちんと落ちているか確かめてみよう。調理員さんが洗った後、同じ薬を使うようになります。皆さんはどうなるかな」
 - ※ ヨウ素デンプン反応が出ていない写真を提示する。
 - 「まねっこ活動」をしてみて、思ったことを問う。
 - ・発問「「まねっこ活動」をしてみて思ったことはありますか」
 - ※ 1年生の1学期段階であるため、自分が考えていることを分かりやすく表現することが難しい場合がある。そこで、状況に応じて次の補助発問を想定している。
 - ・補助発問「○○さんと同じ考えの人はいますか」
 - ・補助発問「どうしてそのように思うのですか」
 - ・補助発問「どこからそのように思うのですか」

このようになり (C2-①)

- 実際に使った食器を洗う「まねっこ活動」を行う。
 - ※ 「まねっこ活動」をしているときは次のような姿が想定される。
 - ・調理員と同じ速さで終えようと食器を洗おうとする。
 - ・見た目はきれいなのにヨウ素デンプン反応により汚れが残っていることを知り、驚く。(写真1)
- 思ったことを発表する。(写真1)
 - ・調理員さんは、速くて、しっかり汚れも取れていることがすごい。僕も見た目はきれいだったのに、汚れが残っていた。
 - ・米粒を取るのが難しかった。ビデオで見ていると簡単そうだったのに。
 - ・調理員さんは、毎日仕事をしているから速くできるのかもしれない。もう一回してみたらきれいに洗えるかもしれないし、やってみたい。
 - ・調理員さんは、毎日もっとたくさんの食器を洗っているからもっとたくさんの食器を洗って確かめたい。



☆生活科②

このように働きかけると【働き掛け2-②】

- どのような「めがね」を使えば、課題が解決できそうかを問う。
 - ・説明「もっとたくさんの食器を洗う「まねっこ活動」をしないと本当に大変なのか分からないということですね」
 - ・発問「では、何のめがねを使って「まねっこ活動」をすれば二重丸（課題）が分かりそうですか」
- ※ 1年生の1学期段階であるため、自分が考えていることを分かりやすく表現することが

難しい場合がある。そこで、状況に応じて次の補助発問を想定している。

- ・補助発問「〇〇さんと同じ考えの人はいますか」
- ・補助発問「どうしてそのように思うのですか」
- ・補助発問「どこからそのように思うのですか」
- ・指示「何のめがねを使って次の「まねっこ活動」を行いますか。ワークシートに理由も書きましょう」

※ 1年2組では、視点を「めがね」と呼んでいる。

このようになり (C2-②)

- 追究の視点を明確にする。
 - ・速さのめがねを使うと調理員さんが大変かどうか分かる。ずっと同じ速さで何百枚も洗うのは大変だから。
 - ・時間のめがねを使うと調理員さんが大変かどうか分かる。長い間続けていると大変だから。
 - ・量のめがねを使えばいい。調理員さんは、20分で900枚終わらせるから、同じ時間でいくつ洗えるのかを確かめてみる。
- ※ _____のように、調理員の仕事に着目している発言やワークシートの記述が見られたら「見方・考え方」を働かせていると判断する。

本時ここから

このように働き掛けると【働き掛け3-①】

- 「まねっこ活動」を設定する（家庭科室）。
- ・説明「この前は、1年生が使った食器を洗う「まねっこ活動」をしましたね。今日は、全校の食器を集めました。今日の「まねっこ活動」を表にまとめました」
- ・発問「食器洗いは何のために行いますか」

- ・洗う食器は、全校児童が使ったご飯茶碗。
 - ・二人一組で行う。一人が洗っているときは、もう一人は、タブレット端末で食器洗いの様子を撮影する。
 - ・時間は20分とする。
- ※ 気温、使う道具はすべて同じとする。

- 「まねっこ活動」をしてみて、大変だったことを問う（教室）。
- ・発問「調理員さんと自分たちの食器洗いの様子から言えることはありますか」
- ・発問「今日の「まねっこ活動」で大変だったことを発表しましょう」
- ・指示「今日の「まねっこ活動」で大変だったことをワークシートに書きましょう」

このようになり (C3-①)

- 1, 2年生全体の食器を洗う「まねっこ活動」を行う。
 - ・食器の汚れを落とすためです。
 - ※ 「まねっこ活動」をしているときは次のような姿が想定される。
 - ・調理員と同じ速さで終えようと食器を洗おうとする。
 - ・米粒を取るのに苦労する。
 - ・量の多さに戸惑い、食器の汚れを落とすきれない。
 - ・予想以上に時間がかかり、35人で行っても調理員よりも遅くなる。
 - ・食器洗いの様子をタブレット端末を活用して、撮影する。 ☆ツール活用能力
- 「まねっこ活動」をしてみて、大変だったことを発表する。
 - ・大変な仕事を毎日続けていて、調理員さんはすごい。僕だったら、毎日続けられそうにない。
 - ・タブレット端末を見てみると僕はゆっくりで調理員さんが速いことが分かった。ずっと同じ速さで汚れも落とすのはすごいし、大変だ。 ☆ツール活用能力
 - ・汚れを落とすのがやっぱり大変だった。そして、食器洗いも速い。
 - ・長い時間暑い中で食器を洗ってすべての汚れを落とすのは大変だ。 ☆生活科②

本時ここまで

このように働き掛けると【働き掛け3-②】

- どうして大変な思いをして続けていられるのかを問う。
- ・発問「どうして大変な思いをして毎日仕事を続けていられるのだと思いますか」
- ・説明「皆さんが予想したことを確かめてみましょう。調理員さんをお呼びしました」

このようになり (C3-②)

- 調理員の思いを立場を変えて考える。
- ※ この場面において、子どもは、「まねっこ活動」を基に考えたり友達のを分かって聞きながら、自分の考えとつないで調理員の思いを考える。 ☆協働性
- ・きっと僕たちにおいしく食べてもらえるように大変だけど働いてくれているのだと思う。
- ・私たちに喜んでほしいから続けられるのだと思う。 ☆生活科②

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 調理員との交流の場を設定する。調理員に向けた手紙を書かせる。

- ・説明「いつも給食を作ってくださいの水野さんに来ていただきました。皆さんが確かめたいのは、調理員さんの気持ちでしたね。早速お話ししていただきます」

給食を作る仕事は簡単ではありません。大変なこともたくさんあります。でも、頑張っ
て続けられるのは、皆さんに元気で大きくなってほしいからです。美味しく給食を食べてほ
しいからです。給食の片付けも一生懸命にします。次の日にぴかぴかの食器で食べてもら
いたいからです。私たちが嬉しいのは、作った給食を全部残さず食べてくれることです。
食器がきれいになって返ってくることです。これからは美味しい給食を毎日届けます。

- ・発問「水野さんは、なんと言っていましたか」
- ・発問「水野の話聞いて分かったことを発表しましょう」
- 調理員に向けた手紙を書かせる。
- ・指示「最後に調理員さんに手紙を書きましょう。書く内容は、調理員さんの仕事や「まね
っこ活動」をしてみて分かったこと、考えたこと、思ったことです」

このようになる (Cn)

- 調理員と自分の関係に気付く。
- ・調理員さんが毎日頑張っているから僕たちは美味しい給食を食べることができる。 ☆生活科①
- 手紙に分かったこと、考えたこと、思ったことを記述する。
- ・いつもおいしい給食を作ってくれてありがとうございます。僕は、調理員さんが毎日大変な準備をして給食を作ったり片付けてくれたりしているから元気に過ごせるのだということが分かりました。食器の後片付けをしてみたら思っていたよりも大変でした。調理員さんはすごいです。今までは、苦手なものを残すこともあったけど、これからは給食を残さず食べられるように頑張ります。 ☆生活科①生活科③

年間を通して講じる働き掛け

このように働き掛けると

- 成長絵本をつくる場を設定する。
- ・指示「これまで書きためたワークシート、タブレットの映像を見て自分ができるようになったことを絵本にまとめましょう」

このようになる

- 調理員と関わることにより形成される自分自身への気付きを自覚する。
- ・大きくなるってということは、分からなかったことが分かるようになるってこと。調理員さんがすごく大変な準備をして毎日ぼくたちの健康のために給食を作ったり片付けてくれたりしていることが分かりました。一緒に仕事をしてみて本当に大変だということが分かりました。だから、残さずきれいに給食を食べます。 ☆生活科①生活科③

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、 のように、調理員に対する気付きの質を高め、 のように給食を残さず食べようとする態度が発揮されているかを発言やワークシートの記述から判断する（ と のセットでCnとする）。
- ②-1 働き掛け1-②を受けて、 のような発言が見られたら、調理員の仕事に着目し、立場を変えて考えるという「見方・考え方」を働かせていると判断する。
- ②-2 働き掛け2-②を受けて、 のように、追究の視点を明確にしているかを発言やワークシートの記述から判断する。 のように視点を明確にしていれば調理員の仕事に着目し、立場を変えて考えるという「見方・考え方」を働かせていると判断する。
- ③-1 働き掛け2-①、3-①を受けて、 のような発言が見られたら、自分と調理員の相違点を考えていると判断する。
- ③-2 働き掛け1-②、3-②を受けて、 のような発言が見られたら、調理員の思いを予想していると判断する。
- ④ 年間を通して講じる働き掛けを受けて、 と のように調理員とかかわることにより形成される自分自身の気付きを自覚しているかを成長絵本の記述から判断する。